

# エコアクション21

## 2018年度環境活動レポート

発行日 2019年4月 9日

改訂日 2019年5月21日

レポート対象期間 2018年3月 ~ 2019年2月

有限会社 城陽産業



ノビタキ ♀

[目次]

表紙	1
目次	2
1. 事業概要	3
1) 事業者名及び代表者名	3
2) 所在地	3
3) 環境管理責任者及び事務局	3
4) 連絡先	3
5) 事業活動の内容	3
6) 適用事業範囲	3
7) 事業規模	3
8) 施設等の状況	3
9) 産業廃棄物許可証の内容及び許可番号	4
10) 廃棄物の処理料金	4
11) 環境関連技術資格の名称と取得人数	4
12) E A 2 1 推進組織図	5
2. 環境方針・環境目標	6～7
3. 2018年度分環境負荷の調査結果と取組状況まとめ	7～8
4. 2018年度環境目標・実績	9～11
5. 主要な環境活動計画取組み結果の考察	11～13
6. 次年度以降の取組み内容	13
7. 環境関連法規への違反、訴追等の有無	14
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	14

## 1. 事業概要

- 1) 事業者名称及び代表者名  
事業者名称：有限会社城陽産業  
代表者名：代表取締役 浦上富廣  
設立日：昭和44年4月  
資本金：500万円
- 2) 所在地  
本社  
〒671-0101  
兵庫県姫路市大塩町2162
- 3) 環境管理責任者及び事務局  
環境管理責任者：代表取締役 浦上富廣  
環境事務局：湯口正文
- 4) 連絡先  
連絡担当者：(環境事務局) 湯口正文  
TEL：079-247-9652  
FAX：079-247-9653
- 5) 事業活動の内容  
産業廃棄物の収集運搬  
製鋼原料売買  
製紙原料売買  
出先での請負工事
- 6) 認証・登録事業範囲  
登録事業者名：有限会社城陽産業  
対象事業所：本社・工場  
対象外：なし  
対象とする活動：(事業活動の内容と同じ)
- 7) 事業規模

活動規模	単位	2009年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
処理量	t	3,718	3,930	3,448	3,834	2,084
売上高	百万円	160	160	134	177	176
従業員数	人	13	10	9	9	8

- 8) 施設等の状況
  - 収集運搬車両等
    - ・8t車クレーン付ダンプ 1車
    - ・4t車ヒヤブクレーン付き平ボデー 1車
    - ・3t車ヒヤブクレーン付きダンプ 1車
    - ・2t車平ボデー 1車
    - ・営業車 1車
    - ・軽トラック 1車
  - その他車両
    - ・フォークリフト 5台
    - ・ショベルローダー 1台
  - 計量器
    - ・台秤(最大計量容量5t) 1台

9) 産業廃棄物許可証の内容及び許可番号

許可 県市名	事業の区分	許 可 番 号	事 業 の 範 囲	許可 年月日	許可 有効期限
兵庫県	産業廃棄物 収集運搬業	02802012453	汚泥、廃油、廃プラスチック類（石綿含有 産業廃棄物を含む）、紙くず、木くず、織 維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリ ートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃 棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃 棄物を含む）	H26.07.27	H31.07.26

その他の許可内容 古物商許可（兵庫県公安委員会） 第631609000052号  
 公布日 H2. 7. 13  
 金属商許可（兵庫県公安委員会） 第1600100001号  
 許可・公布日 H13. 6. 1

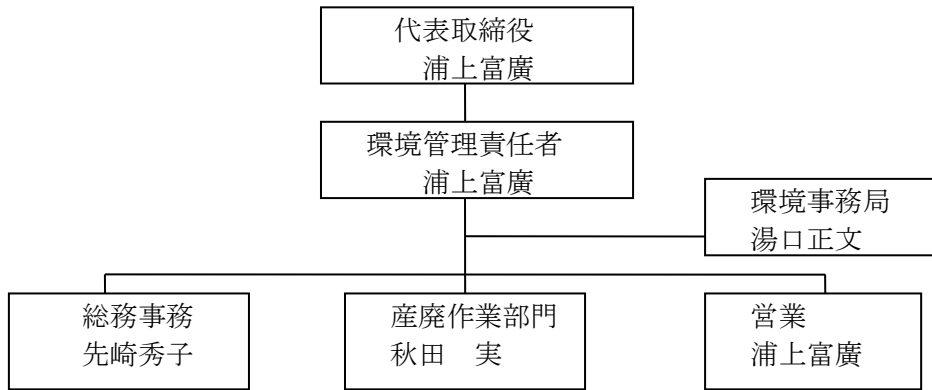
10) 廃棄物の処理料金：別途見積書による

（廃棄物の種類、数量、荷姿、性状等により、処理料金が異なる為）

11) 環境関連技術資格の名称と取得人数

大型運転免許・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3人  
 中型運転免許・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5人  
 大型特殊運転免許・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人  
 けん引運転免許・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人  
 移動式クレーン運転免許・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人  
 小型移動式クレーン運転技能講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2人  
 玉掛技能講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3人  
 ガス溶接技能講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2人  
 フォークリフト運転技能講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6人  
 ショベルローダー等運転技能運転修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2人  
 フロン回収技術講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人

1 2) E A 2 1 推進組織図



	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間、技能、技術者の準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境目標設定の承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>・環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムを構築し、実施し、管理</li> <li>・法規制登録簿の承認</li> <li>・環境活動計画書の承認</li> <li>・環境活動の取組み結果の代表者への報告</li> <li>・環境活動レポートの確認及び地域事務局への送付</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、E A 2 1 推進委員会の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境目標、環境活動計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・テスト、訓練の実施のフォロー</li> <li>・従業員に対する教育訓練計画の作成とフォロー</li> <li>・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営システムの実施</li> <li>・自部門における環境方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・テスト、訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。</li> </ul>

## 2. 環境方針

### 2018年度環境方針

作成 2018年3月20日

#### 基本方針

有限会社城陽産業は、企業理念に基づき全ての業務を通じて省エネルギー、省資源、リサイクルの推進、廃棄物削減を自主的、積極的、継続的に推進し、地球環境の保護に努める。

#### 企業理念

「地球環境を守る」を基本に  
一人ひとりが責任を持ち積極的に行動する。

#### 重点活動

- 1) エコアクション21マネジメントシステムを円滑に運用する。そのためエコアクション21事務局を設置し、関する諸問題を協議し解決する。
  - 2) 従業員に対して朝礼、研修等を通じて、環境方針、環境活動計画などについて周知徹底を図る。
  - 3) 環境関連法規、及びエコアクション21の要求事項を遵守する。
  - 4) 収集運搬業務、及び外部請負業務等においては、常に環境への配慮を行う。
  - 5) 以下を活動の項目とし、環境負荷の低減を図るため、具体的数値目標を定め、実施評価、見直しを行い、継続的な活動に取り組む。
    - ①省エネルギー活動を推進し二酸化炭素排出量の削減
    - ②節水による水使用量の削減に取り組む
    - ③化学物質の適正管理
    - ④廃棄物の削減とリサイクル化を推進
    - ⑤グリーン購入の推進
    - ⑥受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮
    - ⑦地域社会活動に貢献
- この環境方針は、全従業員に周知徹底するとともに、社内外に公表する—

#### 2-1 2018年度環境目標（基準年度2009年）（CO<sub>2</sub>排出量目標は4項別表に表示）

○各エネルギー使用量の削減により二酸化炭素排出量を削減する			
二酸化炭素総排出量目標 85,759kg-CO <sub>2</sub> /年以下			
エネルギー削減項目	・電力使用量の削減	基準年度より8%以上削減	12,857kWh/年以下
	・ガソリン使用量の削減		3,968.7ℓ/年以下
	・軽油使用量の削減	基準年度より年平均原単位8%以上削減	目標原単位1.67 (軽油ℓ/売上高万円)以下
	・プロパンガスの削減	基準年度より8%以上削減	42.7kg/年以下
○節水による水使用量の削減			
	・代替水活用による水道水の節減	基準年度より7%以上削減	98.58m <sup>3</sup> /年以下
○化学物質の使用量の削減・適正管理			
	・燃料の漏れ防止、塗料、溶剤容器の蓋		漏れ防止、不要時は蓋
○選別、リサイクルの徹底で廃棄物削減			
	・選別方法見直しによる再資源化量拡大		リサイクル率96%以上
○グリーン購入の拡大			
	エコマーク商品の積極的購入 購入の都度検討		グリーン商品購入率50%以上
○受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮			
	・収集運搬時の飛散、漏洩の防止		飛散、漏洩事故ゼロ
○事業所周囲の定期的清掃作業			
	・従業員による事業所周囲の定期清掃		1回以上/月

2-2 2021年度までの中長期の環境目標

○各エネルギー使用量削減目標		
	基準年度に対し	2019年度 2020年度 2021年度
		9%以上削減 10%以上削減 11%以上削減
○水道使用量削減目標		基準年度の7%以上削減
○化学物質の使用量の削減・適正管理	燃料の漏れ防止	漏洩事故件数0件
	塗料、溶剤容器の蓋	確実に閉める
○リサイクルの徹底で廃棄物削減	取り組み定着 再資源化量の拡大	
	リサイクル率	96%以上維持
○グリーン購入の拡大	グリーン商品の積極的購入	グリーン商品購入率 50%以上
○収集運搬時の飛散、漏洩事故防止	飛散、漏洩事故件数	0件
○事業所周囲の定期清掃	従業員による清掃	1回以上/月

3. 2018年度環境負荷の調査結果と取組状況まとめ

2018年度の環境負荷削減の目標及び環境活動を策定する為、過去2年間の「環境への負荷の自己チェックリスト」及び「環境への取り組みの自己チェックリスト」の調査結果のまとめは下表の通りです。

(電力購入先: 関西電力 2015年度公表値 CO<sub>2</sub>実排出係数 0.509kg-CO<sub>2</sub>/kWh)  
環境への負荷の自己チェックリスト (集計期間 2016年度～2018年度)

		単位	2016年度	2017年度	2018年度	
温室効果 ガス排出量	二酸化炭素	kg— CO <sub>2</sub>	63,004	62,953	47,796	
	受託した 産業廃棄 物の処理 量	t	3,448	3,834	2,084	
廃棄物等 総排出量 ※	再使用	t	—	—	—	
	再生利用	t	0.119	0.170	0.19	
	熱回収	t	—	—	—	
	単純焼却	t	0.023	0.024	0.02	
	その他	t	—	—	—	
	最終処分量	t	—	—	—	
総排水量	公共水域	m <sup>3</sup>	90.3	83.3	69.3	
水資源投 入量	上水	m <sup>3</sup>	80.5	74.3	60.7	
	地下水	m <sup>3</sup>	—	—	—	
	雨水	m <sup>3</sup>	9.8	9.0	8.6	
総エネル ギー投入 量	購入電力	MJ kWh	155,825 15,852	165,016 16,787	130,941 13,321	
	化石燃料合計エネルギー量 使用量内訳	ガソリン	MJ リットル	800,214 1,855	793,962 2,088	598,808 2,039
		軽油	MJ リットル	19,221	18,832	13,799
		LPG	kg	35.7	46.5	23.0
	新エネルギー	MJ	—	—	—	
	その他	MJ	—	—	—	

環境への取り組み状況まとめ

2017年度、及び2018年度（各年度の期間は3月度から翌年2月度まで）

数値の上段は2017年度、下段は2018年度の終了後にチェックした値です。

作成日 2019.3.12

施 策		チェックの結果の点数	満点の場合の点数	実施度合 %	実施度合いの低い施策項目、又は変化点
1. 事業活動へのインプットに関する項目	1) 省エネルギー	86 86	96 96	89.6 89.6	昨年度（2018年1月）自販機撤去で電力の削減が出来た
	2) 省資源	26 26	28 28	92.9 92.9	印刷物の部数が最小限になるよう考慮
	3) 水の効率的利用及び日常的な節水	20 20	20 20	90.0 90.0	雨水の有効活用（雨水は2011年度より利用したので今回評価を見直した）
	4) 化学物質使用量の抑制及び管理	8 8	8 8	100 100	
小 計		140 140	152 152	92.1 92.1	
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	1) 温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止	12 12	12 12	100 100	空調の適温化
	2) 事務所等における一般廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理	38 38	42 42	90.5 90.5	リサイクルしやすい、詰め替え可能な製品の優先的購入
	3) 排水処理	0	0	—	
	4) その他生活環境に係る保全の取組等	0	0	—	
小 計		50 50	54 54	92.6 92.6	
3. 製品及びサービスに関する項目	1) グリーン購入（環境に配慮した物品等の購入、使用等）	20 20	32 32	62.5 62.5	環境マーク認定製品、再生材料から作られた製品の優先的購入
	2) -1 産業廃棄物の収集運搬にともなう環境負荷の低減	52 52	58 58	89.7 89.7	最新の排ガス規制や騒音規制に適合した車両への代替（車両更新時に対応予定）
	2) -2 産業廃棄物の処理等における環境配慮	34 34	34 34	100 100	
	小 計		106 106	124 124	85.5 85.5
4. その他	1) 生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組	0 0	0 0	— —	
	2) 環境コミュニケーション及び社会貢献	6 8	8 8	75.0 100	ホームページ上で環境に関する情報を提供
	3) 施主・事業主における建築物の増改築、解体等に当たっての環境配慮	— —	— —	— —	
小 計		6 8	8 8	75.0 100	
合 計		302 304	338 338	89.3 89.9	



#### 4. 2018年度環境目標

P7 3項の2017年度の環境への負荷、及び環境へ取り組み状況まとめにより、当社の2018年度の環境目標は、環境負荷、及び環境への取り組みの調査結果により以下のような目標を設定いたしました。※1 電力のCO<sub>2</sub>排出係数は0.509 kg-CO<sub>2</sub>/kWhに見直し

取組み項目		基準年度実績	2018年度目標
		2009年3月 ～2010年2月	2018年3月 ～2019年2月
二酸化炭素排出量の削減 基準年度の8%以上削減  注意 原単位は 軽油使用量% / 売上高(万円)	電力使用量の削減 (kWh)	7,113 (13,975)	6,544 (12,857)
	軽油使用量の削減 注 軽油は原単位で管理 (L)	原単位1.81以下 75,949 (28,940.2)	原単位1.67以下 69,873 (26,624.9)
	ガソリン使用量の削減 (L)	10,015 (4,313.9)	9,214 (3,968.7)
	ガス使用量の削減 (kg)	139 (46.4)	128 (42.7)
二酸化炭素排出量の合計		93,286	85,759
水道使用量の削減 (m <sup>3</sup> )		106	98.58
廃棄物分別によるリサイクルの向上		不明	選別方法見直しによる再資源化量拡大 96.0%以上
グリーン購入の推進		グリーン購入への意識なし	グリーン商品の積極的購入 グリーン商品購入率50%以上
受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 収集運搬時の飛散、漏洩の防止		収集飛散、漏洩事故 0件	収集飛散、漏洩事故ゼロ
地域社会への貢献		不定期に周辺の清掃実施	事業所周辺の定期清掃 1回以上/月

※1 電力の二酸化炭素排出係数基準年度(2009年度)に遡って見直し

購入先：関西電力 2015年度公表値 CO<sub>2</sub>実排出係数 0.509 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

#### 4. 実績(運用期間 2018年3月～2019年2月)

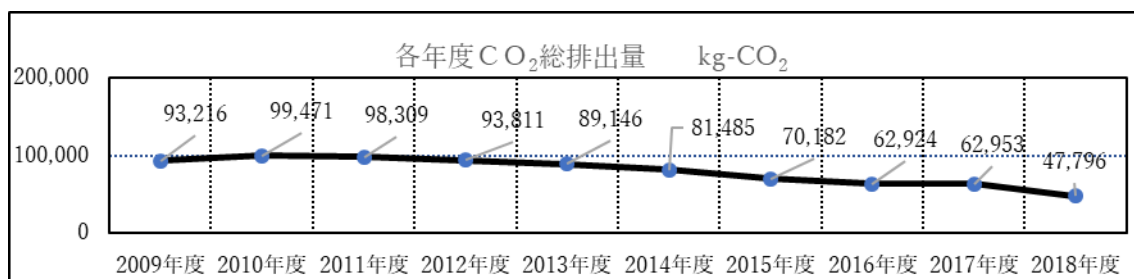
環境目標に対する達成状況は下記の通りです。

達成率の計算は右記の式を使用する。達成率 = (1 - (実績値 - 目標値) / 目標値) × 100  
温室効果ガス総排出量の推移(基準年度2009年 2012年5月認証・登録)

注意 各年度とも電力のCO<sub>2</sub>実排出係数は0.509 kg-CO<sub>2</sub>/kWhで計算しています。

##### 1) 事業活動による二酸化炭素総排出量削減

取組み項目	2018年度目標 (3月～2月)	2018年度実績値 (3月～2月)	達成率	判定
エネルギー使用量削減による二酸化炭素排出量削減	85,759 kg-CO <sub>2</sub>	47,796 kg-CO <sub>2</sub>	144.27 %	達成



1) - 1 電力使用量の削減

取組み項目	2018年度目標 (3月～2月)	2018年度実績値 (3月～2月)	達成率	判定
使用量の削減 基準年度の8%以上削減	12,857 kWh	13,320.5 kWh	96.4 %	未達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減 基準年度の8%以上削減	6,544 kg-CO <sub>2</sub>	6,780 kg-CO <sub>2</sub>		

1) - 2 ガソリン使用量の削減

取組み項目	2018年度目標 (3月～2月)	2018年度実績値 (3月～2月)	達成率	判定
使用量の削減 基準年度の8%以上削減	3,968.7 <sup>リットル</sup>	2,039 <sup>リットル</sup>	148.6 %	達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減 基準年度の8%以上削減	9,214 kg-CO <sub>2</sub>	4,733.9 kg-CO <sub>2</sub>		

1) - 3 軽油使用量の削減 (取組み項目: 原単位の低減 軽油使用量/売利上げ高)

取組み項目	2018年度目標 (3月～2月)	2018年度実績値 (3月～2月)	達成率	判定
原単位の低減 基準年度の原単位で 8%以上削減	1.67 リットル/万円	0.78 リットル/万円	137.0 %	達成
使用量の削減 ※2 8%以上削減	26,624.9 リットル	13,799 リットル	248.3 %	達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減 基準年度の8%以上削減	69,873 kg-CO <sub>2</sub>	36,213 kg-CO <sub>2</sub>		

※2 軽油使用量は業務量(収集運搬量)に大きく影響され、軽油量削減をメインの削減目標とはできない。ゆえに売上高当たりの軽油使用量で表される原単位低減を目標としている為参考値とする。

1) - 4 LPG使用量の削減

取組み項目	2018年度目標 (3月～2月)	2018年度実績値 (3月～2月)	達成率	判定
使用量の削減 8%以上削減	42.7 kg	23.0kg	146.1 %	達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減 基準年度の8%以上削減	128 kg-CO <sub>2</sub>	69.0 kg-CO <sub>2</sub>		

2) 水道使用量の削減

取組み項目	2018年度目標 (3月～2月)	2018年度実績値 (3月～2月)	達成率	判定
使用量の削減 基準年度の 7%以上削減	98.58 m <sup>3</sup>	60.7 m <sup>3</sup>	138.4 %	達成

水道水使用量は2009年度を基準にして7%削減を維持することとする

3) 選別とリサイクルの推進  $\text{リサイクル率} = (\text{全収集運搬量} - \text{埋立向量}) / \text{全収集運搬量} \times 100$

取組み項目	取組み結果	判定
趣旨説明と現状調査	・全員に趣旨説明と現状作業の確認を指示	達成
改善案作成	・金属と樹脂の混合物のリサイクル化	達成
実施及び実施結果確認と見直し 2018年度目標値 96%以上	・金属スクラップの直行分をリサイクル対象から外した(8月より) その為リサイクル率が大幅に低下 年間リサイクル率94.47% リサイクル量1977.3t/全収集運搬量2084.1t(年間)	未達成
取組みの定着	・処理可能な収集物の分別を徹底	達成
取組みの結果確認と改善案作成	・定期的な現場確認とフォロー実施	達成

4) グリーン購入の拡大  $\text{購入率計算方法} = \text{グリーン商品数} / \text{全購入量} \times 100$

取組み項目	取組み結果	判定
趣旨説明と現状調査	・趣旨説明実施と購入状況確認	達成
カタログ、店舗等でグリーン商品確認 目標・カタログ等の商品検索方法確立 ・グリーン商品を優先的に選択	・購入量が非常に少なく、直接店で購入する為購入者を限定しグリーン商品の優先購入を継続指導した	達成
購入の都度グリーン商品の優先的に購入 目標50%	・購入時にグリーン商品を確認し購入 ・単価、品質等も大きな選択要 実績86.7% (グリーン商品購入件数13件/全購入件数15件)	達成

5) 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮

取組み項目	取組み結果	判定
漏洩事故の防止	容器の密閉、転倒防止対策確実実施 事故0件	達成
飛散事故の防止	シート、ネットによる養生確実実施 事故0件	達成

6) 地域社会活動に貢献する

取組み項目	取組み結果	判定
趣旨説明と現状調査	・趣旨説明の実施	達成
清掃予定場所の設定と実施	・清掃日を決めずに不法投棄ごみ回収 ・2回/年は全員で清掃作業	達成
問題点の把握と改善案作成	・全員による清掃で普段清掃しない放置ゴミを回収することで不法放置ゴミの量が減少したと判断した	達成

5. 主要な環境活動計画取組み結果の考察

事業活動による環境負荷を低減する為、事務局で進捗状況をフォローし、定期的な環境教育時にグラフ化した資料によりわかりやすく説明と掲示をすると共に、環境管理責任者から収集運搬時の注意事項の説明をすることで意識向上を図った。

1) 二酸化炭素排出量の削減

年間総CO<sub>2</sub>排出量は達成率144.27%とクリアできた。大きな要因として金属スクラップの直行分を他社扱いにした為に大幅に軽油使用量が減少した。及び社員の福利厚生目的で自動販売機を設置していたのを2018年1月末に撤去した効果が出ている。

(1) 電力使用量の削減

こまめな消灯、冷暖房の適正温度設定活動は目標を達成できたが、従業員の調管理も考え常にエアコンをONにすることを継続、及び福利厚生の見直し目的で自動販売機を作業場に新設したが電力消費量が増加、及び自販活用頻度が少な

いたため1月末に撤去した。結果、電力使用量は対前年比約21%減、達成率96.39%と大幅に向上した。2019年度もより取組を工夫して行く。

#### 取組み内容

##### ○不要照明の消灯の継続実施

ミーティング等にて取組みを指示し活動は目標を達成できた。

##### ○冷暖房時のエコ運転設定継続（室温：冷房時26度以上 暖房時22度以下）

#### (2) ガソリン、軽油使用量の削減

適正運行管理の実施、及び営業車をハイブリッド車にしてから効果は出ている。

#### 取組み内容

##### ○エコドライブの推進

エコドライブについて、ミーティングの度に教育を行っている。今後も継続してエコドライブへの呼び掛けを行う。

##### ○適正運行管理による運送効率のUPで軽油の原単位の良くする

昨年度に続き収集運搬と管理業務を出来るだけ同じタイミングで行い、空車での走行距離を削減する取組みを継続し、燃料の削減を図るよう業務の改善を進めて来た。

#### 特記事項

2018年度途中から直行している金属スクラップ分を当社の収集運搬量から外すことになり、それらの影響で軽油使用量は大幅に減少し原単位も達成率248.3%となった。

#### (3) LPG使用量の削減

未使用時のLPG消費の防止を図ることで削減目標を達成できた。

過去の取組み経過と実績を見ても一番少ない使用量となっている。

継続事例 ・ 給湯器のガス元栓は使用時のみ開とし、種火によるLPG消費を削減、LPGの削減取組みは今後も継続維持とする。

#### 2) 水道水使用量の削減

水道水の使用量削減活動は現在維持活動に段階に入っており、通常時も最低限の量しか使っていない。冬季の凍結による漏水事故を防止ができたので目標に対し達成率は138.43%で達成できた。

きた。

#### 取組み内容

##### ○洗車の方法、回数、タイミング等の工夫で水使用量の節減

##### ○代替水活用による水道水の節減（緑地への灌水は雨水の再利用等）

##### ○保温が難しい場所も冬季前の保温見直しで凍結事象はあったが漏水は無かった。

#### 3) 廃棄物の削減とリサイクル化の推進

今年度のリサイクル率目標は96%と前年比1ポイント減に見直したが、2018年度の間で金属スクラップの直行分をリサイクル目標の計算に含めないことにした為大幅にリサイクル率が94.47%と下がった。

2019年度は中間処理業者への直行分金属スクラップを除く分の選別作業がリサイクル率に大きく影響してくる為、選別作業を工夫してリサイクル率と付加価値を上げることが必要と判断している。

今後ともリサイクルのアイテムを増やし発生量の変動に影響されないよう取り組む必要があるが中国向け樹脂類の輸出が難しくなる為より難しくなる予定。

継続事例 ・ 商品別に写真掲示で選別工程の効率UP（24種類の表示）

・ SUSと樹脂複合物の溶解で、双方のリサイクル化を実施  
（2016年12月より本格的に実施）

・ 金属スクラップ、複合廃棄物の選別とリサイクル率UPの趣旨説明  
・ プレビュー画面等のパソコン画面上で入力ミス確認、校正を行い、

ペーパーレス化を進めて行く

- ・コピー用紙の裏面使用と不要書類の原料化  
裏面使用は継続し不要書類もリサイクル化を図る。

#### 4) グリーン購入を推進

事務用品の購入量は少ないが出来るだけグリーン商品を選んで購入した。 取り組み結果は 年間グリーン商品購入率は86.7%で達成できた。 今後ともこの活動を継続する。

- 日常使用する文具等のエコ商品を選ぶようにしている（メーカー、商品等）

継続事例 ・購入者を限定しグリーン商品の優先購入する

- ・購入先の担当者に出来るだけエコ商品を納入するよう依頼

- 購入時は最寄りの店でエコ商品を優先購入、及び注文品は配達方法見直している  
取組事例 ・ホワイトボード用ペンは必要分だけを購入する方法を選んだ。

（前回は安い時にホワイトボード用ペンまとめ買いしたが、保管期間が長くなると使用できなくなり結果的に無駄になった。）

#### 5) 地域社会活動に参加する

- 事業所周围の定期清掃

- ・今年度も清掃日は特に決めず日常的に周囲の放置ゴミを回収し新たなゴミ放置を防ぐようにした。
- ・全員での清掃は2回/年程度実施し普段清掃しない放置ゴミを回収することで不法放置ゴミ量が減ったと判断している。

継続事例

- ・部分的にゴミが多い場合は部分的に清掃を実施する。
- ・春、夏場の行楽客からの放置ゴミが多いときは清掃日の変更も行う。

清掃活動の様子（草むらに投げ捨てられたゴミを回収）



#### 6. 次年度以降の取組み内容

- 適正運行管理で燃料使用の効率化を図りCO<sub>2</sub>排出量の削減と原単位向上
- 雨水の活用、節水取組みと破損、凍結による漏水防止などにより水道水使用量の削減を図る
- 再利用、分別回収とリサイクルアイテム発掘による資源化で廃棄物量削減とリサイクル率UP、及び分別作業の効率化を図る
- スクラップから特殊金属の選別回収によるレアメタル資源の有効活用
- 化学物質の使用量削減と適正管理
- 事務所用品以外の補助資材のエコ商品化の推進
- 事業所周辺の清掃活動継続実施による地域社会への貢献

## 7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下記の通りであり、それらの遵守状況の確認を今回実施した結果、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、及びフロン排出抑制法の一部の不具合があり是正をした。その他の法律についても実施したが全て遵守されており、関係機関からの指導、勧告、訴訟、及び外部からの苦情等もありませんでした。

主な適用法令名	遵守すべき要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 県条例・市町村条例	産業廃棄物の収集運搬業許可の有効期限遵守 マニフェストの管理 水銀使用製品廃棄物の保管場所の表示	遵守
フロン排出抑制法	第一種特定製品の簡易点検	遵守
自動車NOx・PM法	自動車NOx・PM法の排出基準を満たした車両を運行	遵守
古物営業法	標識掲示・帳簿管理・その他法令の遵守	遵守
兵庫県金属くず営業条例	標識掲示・帳簿管理・その他条例の遵守	遵守

## 8. 代表者による全体評価と見直し

今回、エコアクション21認証後7年目の取り組みであった。

環境方針は適正と判断しているが名称等は2017年版に合わせて見直しに行くこととする。

廃棄物のリサイクル率目標は、EA21取り組みは2017年度からは96%に見直したが2018年度中間から金属スクラップで中間業者への直行分はリサイクル率目標の計算からは年度途中から対象外としたのでリサイクル率は大幅に低下した。

2019年度からは分別対象となる金属スクラップの分別効率をUPさせることが今まで以上に重要となってくる。今一度の創意工夫に取り組んで行く。

- 重要な環境関連情報は業界の研修会で改訂に基づく情報が入っている。その他は新聞、インターネット、業界からの情報、及び環境法令情報サイトからの改訂情報を活用して「環境関連法規等の取りまとめ」を行っている。

尚、タイムリーに情報を入手する為に2016年度後半から従来より詳細な情報が手に入るよう業者と契約し環境法令改正情報を入手できるよう継続して行く。

- グリーン購入の拡大は、購入数量が少ない為購入率が大きく変動するが2019年度も2017年度実績から50%維持を目標に取り組んで行く。
- 電力使用量において、休憩所エアコンの連続運転は、従業員の体調管理上必要な為継続することとしているが、今後も作業内容、気温等を確認しながら今一度運転方法の見直しについて電力使用量削減への検討が必要と考えている。

- 「環境経営システム」の各要素について

エコアクション21事務局からのメール等の情報を有効に生かし、環境経営システムへ速やかに反映するようにしていく。

環境経営マニュアルは2017年版に改訂し、新たに必要な各エネルギーのコスト、収集運搬車両の走行距離等は2017年版での運用に向けて準備を進めている。

産業廃棄物処理業者向け2017年版ガイドラインが発行後に運用切り替えが出来るよう進めていく。

2019年4月9日  
代表取締役 浦上富廣